

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2024. 12
No.376

本年もありがとうございました

今年一年、イナテックグループ社員の皆様には大変お世話になり、誠にありがとうございました。ございました。

来年は私に代わり、鈴木新社長執行役員が舵を取る。"鈴木丸"が出航いたします。

鈴木社長は、イナテックグループにおいて多くの部門に携わり、大変豊かな知識と経験を持っています。営業部門においては、幅広い人脈を活かし大きな功績を残しています。さらにイナテック平湖では、言葉や文化の壁がある難しい環境の中でマネジメント力を発揮し、総経理として素晴らしい活躍を見せてくれました。また、とてつもない量の経営書を読破し、そこで学んだことを活かして

イナテックグループの経営に大きく貢献してくれています。

そんな鈴木社長を、是非イナテックグループの皆さんで支え、協力し合い、盛り上げ、成果を上げていただきたいと思えます。

この新組織発足は、イナテックを変えるチャンスです。今までやれなかった事や意見が通らなかった事などを実現してください。

もっと軽くしましょう。もっとシンプルにしましょう。部署間の壁を取り、皆で助け合える『風通しのよい』新生イナテックにして下さい。

よろしく願っています。

工夫

(稲盛和夫『考え方』より)

一日の創意工夫は

わずかな一歩でも、

その積み重ねはやがて

大きな革新に至る一歩になります。

あまりにも遠い道のりを歩こうと思うと飽きもするし、自分の力のなさを感じてしまい、頓挫してしまいます。遠く掲げた目標は潜在意識にしまっておいて、目の前の一日一日を着実に歩み続ける。そうすれば、とてつもない所まで歩いていけるものです。

前述をイナテックの業務に置き換えると、「格好いいことばかり言ってもしょうがない。まずは目の前の仕事を標準通りこなしましょう。」ということ。イナテックはものすごい「力」を持っています。毎月200万個の製品を、品質不良もなくお客様の要求通りにお届けできる「力」は他社からしたら考えられないのです。

この「力」の原点は、社員の皆さんが標準を守ってくださっているところにあります。そして「もっとやりやすく」「もっと安全に」「もっとムダなく」など、改善に向けて一所懸命知恵を絞っていることで、ものすごい「力」が生まれているのです。これこそ、稲盛さんの言われる『工夫』です。

今日一日に全力を傾注し、

常に創造的な仕事をする

(稲盛和夫『考え方』より)

創意工夫といえは一見、難しそうに聞こ

えますが、それは、今日よりは明日、明日よりは明後日と、必ず改良改善を加えていくということ。同じ研究、同じ仕事をするにしても、今日はこんな方法でやってみる。明日はさらに能率のいい方法を考えていく。

そうした創意工夫がやがては、自分でも想像できないような素晴らしい進歩発展をもたらしてくれます。

他社と差別化するには、この「創意工夫」しかありません。それにはイナテック社員の皆さんの知恵が必要です。

そこで、イナテック社員の皆さんに『考える癖』をつけていただきたいです。

昨今、小学校で導入しているタブレットを活用した教育が問題になっています。タブレットを使い、「チャットGPT」に問いかければ、どんなことも答えてくれる便利なものですが、果たしてそれで良いのでしょうか。

私は前述で『考える癖』をつけて欲しいとお願いました。そこで私から一つ提案します。自分で立てた「仮説」を、「検証」することの癖付けをしてみてください。すると考えがずっと深くなります。予期せぬ事態が起きた時に、自分の頭で考え行動する力が付くのです。

PCは過去の基本情報をもとにした答えしか教えてくれません。基本情報を頭に入れた上で「自分の力で」考える癖をつけると人間本来の素晴らしい創造性が発揮できます。それはチャットGPTを超えるものになると思います。

新しいイナテックが生まれようとしています。皆さんが本来持っている創造性を大いに発揮していただき、「おもろい、楽しい」イナテックを創り上げてください。イナテックには、他社にない試作部門やキャスティング部門があります。そのベースは、『創意工夫』を積み上げて確立した量産技術です。

役者は揃いました。舞台も整いました。さあ、開幕です。

菜根譚後集 一〇七

天地有萬古、此身不再得。人生只百年、此日最易過。幸生其間者、不可不知有生之樂、亦不可不懷虛生之憂。

天地は千秋万古、永遠に存在するが、この身は二度と生まれては来ない。しかも、人生はただ百年にすぎないのに、月日のたつのは甚だしく早い。そこで、幸いにこの天地の間に生まれて来たからには、人間として生まれた命の楽しみを知らなければならぬし、また、この人生をむなしく過ごしはせぬかという恐れを持たなければならぬ。

2
Dangaki